



## リスクがあまりにも大きいのではないか。 羽田新飛行ルート案は見直しを!

### ●生活環境を破壊する騒音と事故のリスク

7月19日、大井町きゅりあん小ホールにて「都心低飛行問題シンポジウム」が開かれました。約300人が集い、来春に迫った羽田新ルート運用の問題点を明らかにするなかで、改めて危機感を共有しました。

国際競争力をつけるという名目で、発着枠を拡大するためのルート変更案。大きな問題は南風時の15時から19時までの都心上空の低空飛行です。これまで経験したことのない騒音にさらされることはもとより、落下物の問題も人口密集地であるからそのリスクを想定しなければなりません。世界の大空港は住宅密集地を避けて郊外につくるのが趨勢だといえます。羽田だけに集中させず、地方空港の余力をもっと活用できないでしょうか。

保育の現場からは、騒音が子どもの情緒や健康に与える影響が心配であり、「国は子どもが健やかに育つことを保障するものではないか」との訴えがあり、視覚障害者は、音が周りの状況を知る大事な手

段であることから、ひっきりなしの騒音は著しい行動の制限に通じ、死活問題だと訴えました。

パイロットとしての経験もある航空評論家の杉江弘さんは、騒音対策のために到着経路の高度を上げるとしていることは、急角度での降下となり、滑走路でのバウンド、すなわち大事故につながる危険性があるといえます。またその運用方法にすると、現在取られている安全対策「スタビライズドアプローチ(安全な進入着陸方式)」と矛盾するのではないかと、パイロットの立場からの指摘がなされました。

### ●住民理解を得られない不合理な計画と強引な進め方

羽田空港には、騒音問題を中心に国と地元との信頼関係を紡いできた歴史があります。昭和63年当時、京浜島頭上50mを飛行機が飛ぶ期間がありましたが、新C滑走路の運用開始により解決するとの約束で、直下の工場は訴訟の取り下げをし

ました。また長年の騒音問題はD滑走路を作ることで解決すると地元は捉えていました。このような歴史的な経過や約束を全て反故にする今回の新ルート案は手続き的にも大きな問題があるのです。

そもそも必要性や効果があるのか、危機管理体制はどうなっているのか、パイロットや管制官など現場の声を聞いているのか等、あまりにも不安要素をはらんだ羽田新ルート案。住民の理解が得られないまま、内容の精査も不十分なまま、政治的な「結論ありき」で強引に進められていくのでしょうか。来春には運用を開始しようとする国土交通省。羽田新飛行ルート直下の住民の不安は払拭できず、計画を私たちは容認できません。根本からの見直しを要求していきます。

今回の大田区議会(第2回定例会)は、羽田新ルート関連の多くの陳情に表れている区民の心配をすべてはねのけました。議会は区民を代表する機関であり、区民の意思を区政に反映させる重要な役割を担っています。区議会は区民生活を守るためには、国に対峙してでも運用をチェックする機能を放棄するべきではなく、それを肝に銘じつつ発言を続けていきます。

## “困ったときはいつでもおいで” ～一時保育は地域に開かれた窓～ ピッピ保育園を訪ねて

地域で子育てを支援をしている仲間といっしょに、横浜市青葉区にある横浜市立認可「ピッピ保育園」を訪ねました。この保育園は一時保育を併設しており、保育定員30人に対して一時保育の定員が15人です。一時保育では休日保育も行っています。

“働いていてもいなくても”子どもを預けることのできる「一時保育」は、多様な働き方を支えるためにも虐待予防としてもとても重要であると聞きしました。たしかに週2～3日の就労の人が入れる保育園は少なく、また孤立した育児は産後うつ等を招く危険性もあります。家庭のニーズに寄り添いながらのソーシャルワーカー的保育機能も今の時代、理想的かもしれません。運営するNPO法人ピッピ・親子サポートネットはその実践から「一時保育」の重要性を訴え、やがて横浜市の「乳幼児一時預かり事業」(生後57日から入学前までの子どもを1時間300円で預かる)とその拡充につながりました。

大田区の一時的保育は、現在、キッズなルーム大森、キッズなルーム六郷、保育室サン御園、萩中児童館の4か所で実施されており、いずれも月～土曜日、9時～午後6時。生後5か月から就学前までで、利用料金は1時間900円です。地域の偏りもあり、使い勝手には課題があるといえます。

ピッピ保育園訪問では大きな刺激を受けました。先行事例を参考にしながら「一時保育」を含めた、地域で安心して子育てのできる環境づくりをめざして提案を続けていきます。



## 選挙報告

4月に統一地方選挙が行われました。大田区議会には50の議席に対して70人が立候補。北澤は8位、5247票を獲得して3期目を迎えることができました。

選挙をはさんだ半年間は車イスでの生活となりましたが、バリアフリーの課題など新たな視点を持つことができました。

これからの4年間の任期、生活者の視点から地域課題の解決に向けて政策提案をしていきます。ぜひお声を聞かせてください。常任委員会は「保健福祉委員会」、特別委員会は「羽田空港対策特別委員会」に所属します。

